

肺癌はいがんになってみたら
あそこ ことごと
如来さまのにょらいさま説法せっぽうが
自然しぜんにごきごいごきごまごきごります
鈴木章子著「報告知のあひら」より



No.107

2019(平成31)年
3月1日
発行
浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
責任者
藤本使朗



第10期門徒推進員養成連続研修会 2月2日 志賀 妙願寺にて

ヒダカくん・ひかりちゃんのお話

『御文章』のお話

その11

永原智行

ひかりちゃん
ヒダカくん

蓮如さんは晩年に何かしたの。
蓮如さんは備前(岡山県)にいたと
いう母親の消息を聞いて、播磨(兵庫県)出身の
弟子を姫路に行かせ、母親を捜すためのお寺を
建てたんだ。

ひかり
ヒダカ

母を慕う気持ちのあらわれね。
そのお寺が蓮如の孫が住職となった頃には、
真宗教団の西の拠点となって、強大化したんだ。
二度の火災にもかかわらず、二万平方メートルに26
の伽藍(がらん)を構えていたんだよ。

ひかり

蓮如さんがお母さんを偲ぶのも、よくわかる
けど五人も奥さんを迎えたのはなんだかなーと思う
私って頭が固いのかなあ。

ヒダカ

妻帯(結婚)するのは、他の宗派では明治に
なってからだけれども、真宗は親鸞さまから始まる
んだ。

ひかり

本願寺の門主としてちゃんとした妻が必要だ
ったのかもれないし、生まれたたくさんの子ども
たちの母親が必要だったのかもれないわね。

ヒダカ

蓮如さんは、五人の女性と結婚して、27人の
子をもうけたんだ。奥さんはいずれも死別で、どの
女性にも同じ凡夫としてきめ細かい慈悲を注いでい
るし、愛娘が亡くなったときの御文章は今にも通じ
るものがあるよ。お母さんとの別れ、妻たちとの死
別が女性に対する心を養ったのかもれないね。

ひかり

五百年前に全国あちこちに出かけて、八面六臂
(はちめんろっぴ)の活動をして、五人の妻を迎え
て、それぞれに子供をなしているということは、蓮
如さんはそれだけエネルギーで魅力的だったとい
うことでしょね。現代に生きていたら、きつと話
の面白い行動的なおじさんだったと思うわ。

ヒダカ

これから『御文章』を読みてゆめくうちに、
蓮如さんの人柄にもふれていきたいなあ。

法話 出遭えた喜び

如来の作願をたづねば
苦悩の衆生をすてずして
回向を首(しゅ)としたまいて
大慈心(だいじしん)をば成就せり

このご和讃は正像末和讃・三時讃38首にあります。

意味は、『阿弥陀さまが48もの誓願(生きとし生けるものを救うはたらき・願い)を建てられたのは、悪業(苦しみの結果を招く、身《からだ》・口《言葉》・意《心》・煩惱(怒り・むさぼり・おろかさなど)、に苦しむ私たち凡夫を救うことを首(第一)とされ、阿弥陀さまは衆生(生きとし生ける全てのもの)をそのまま救済できる大慈心を完成されたのです。』

昨年の七月に、自坊のご門徒さままで93歳の命を全うし往生された男性がいました。その方は、親鸞聖人の生涯に感銘され、浄土真宗のお法りが好きになり、六十代で浄土真宗の中央仏教学院通信教育・入門課程を卒業されました。

私が29才で婿養子に入寺してまもない頃、その方は七十代半ばで、よくご自宅に行かせていただいたのは、仏教の話や浄土真宗の阿弥陀さまのみ教えを自分の日常生活と重ねて、味わいを聞かせていただきました。

その方は農家で、60歳を過ぎて、婿養子さんに主となる果樹園や畑を任せて、自分は別の畑で好きな作物が実に成ることを楽しんでいました。

ふと、ある時に畑の畝を鋤で耕していると、思ったそとです。それは、「鋤を振り上げ土を耕すたび、土には土を住みかとしているミミズやダンゴムシ・コオロギなど数えきれない程の生物が微塵にもいます。」

私が作物の畝を作るたびに、鋤を振り上げるたびに、知らず知らず生き物の身を鋤で裂いては殺してしまっています。また、作物が実りはじめる頃には消毒をして数えきれない虫を殺しています。そんな私は罪悪深重の凡夫で地獄にく身でありますよねえ。」と、「しかし、あなたがたいものですね。このあさましい愚かな私が阿弥陀さまの衆生の中にいて救いの目当てとしてくださっている。阿弥陀さまのひとりぼたらしのよって、そのまま救われている真っ只中にいるのですから。お念仏(なもあみだぶつ)を申しながら日暮らしに恵まれてるって不思議でありますなあ。」と語ってくださいました。

浄土真宗の教章(私の歩む道)の生活に、「親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀如来の心を聞き、念仏を称えつつ、つねにわが身をふりかえり、慚愧(ざんき)と歡喜(かんぎ)のうちに、現世祈禱(げんぜきとう)などにたよることなく、御恩報謝の生活を送る。」とお示しのように、その方は、自分自身の業の深さに気づかれて、他の宗教にも迷うことなく常に阿弥陀さまの願いに照らされてお念仏を喜ばれた方でありました。その方のお念仏の声が今も聞こえてまいります。

阿弥陀さまのみ教に出遇うと、身・口・意の三業も少しづつ転じられて育てられてまいります。そこに恥ずかしい自分の姿に気づかされてまいります。

阿弥陀さまのお慈悲に出遇わせていただきながら味わせていただきながら、日常生活でお念仏申しましょう。
(荻野益次)



「仏前結婚式」

鈴木悟峰

結婚式と言えば、教会式・神前式で行われるのが多いようですが、仏式でも結婚式が行われます。

仏式での結婚式はお寺に関係する者だけにするのだと思っている方も居られるでしょうが、ご門徒の皆様の結婚式も行われているのです。

結婚式は教会などで、平素の願い事は神社へ、葬儀は仏教でとのパターンが人生を送る主流になっていくかと思えます。

仏式での結婚式を一般にしないのは、仏教は死にまつわる教えだと受け止め忌み嫌う、縁起が悪いと考える方が多いからではないでしょうか。

仏教の教えの目的は「成仏」することですが、その目的を果たすために今をどう生きるかが問われる教えなのです。忌み嫌う、縁起が悪いとする考えは間違いです。

遇いがたい縁に出遇い、人生の新たな門出を阿弥陀さまの尊前で、夫婦となる誓いを交わすことは大変に尊いことではないでしょうか。

阿弥陀さまは、「貴方の喜びは私の喜びである。貴方の悲しみは私の悲しみである。」と受け止めて下さいます。

ご門徒の皆様方の子や孫さんに、「阿弥陀仏の尊前での仏前結婚式はどうでしょう」とお薦めしてみたらどうでしょうか。

浄土真宗では、結婚式の他にも、初参式や成人式なども行われています。ご縁がある方はご住職さんにご相談してみましよう。

日高組実践運動 食事の言葉を家族全員で！

合学

●多くのいのちと、みなさまのおかげにより、このごちそうをめぐまれました。
●同じ深くご恩を喜び、ありがたくいただきます。

食事のごとば

●尊いおめぐみをおいしくいただき、ますます御恩報謝につとめます。
●(同音) おかげで、ごちそうさまでした。

実践

門徒心得

「お彼岸はお参りしましゅう」

年2回、春分の日と秋分の日それぞれ前後1週間を「お彼岸」と呼んでいます。これは、「到彼岸(とうひがん)」と言い、彼岸に到る道、つまり仏道を実践する期間のことです。

彼岸の意味は、「彼方(かなた)の岸」つまり向こう岸ということ。反対に、「此方(こちら)の岸」を此岸(しがらみ)と言います。

その間の「川」は、怒り、腹立ち、そねみ、ねたみなどの煩惱を表し、此岸は迷いの世界を表します。そして、此岸から川を越えて行く彼岸は、悟りの世界、仏さまのお浄土となります。つまり「到彼岸」は、悟りへの道を修行すること、または、お浄土への道となるお念仏を喜ばせていただく機縁にするとき、ということになるでしょう。

「あの世」は「この世」に対する言葉ですが「死後の世界」を意味します。また、「幽冥会(ゆうめいかい)」も「目に見えない暗い世界」のことで、やはり死後に赴く世界とされています。

悟りの世界やお浄土は、迷いに対して使われる言葉で、現世に対する死後の世界という意味ではありません。

春秋の行楽日和にはぜひともお寺の彼岸会にお参りして、仏法聴聞(ちようもん)につとめましよう。
(北山)



法悦クイズ

Q. 「彼岸」の意味は？

次の①～③の中から一つ選んで番号を書いてください。

- ① あの世
- ② 悟りの世界、お浄土
- ③ 幽冥会(ゆうめいかい)

106号の正解は「② 覚如(かくにょ)上人」でした。
〔解説〕永仁2年(1294年)親鸞聖人の33回忌の折、覚如上人は「報恩講式」を撰述され、聖人に対する深い謝徳の思いを表明されたのでありました。さらに翌年、覚如上人は「親鸞伝絵(でんね)」という宗祖のご生涯の行跡を絵巻物で作られました。覚如上人の著述を通して、本山また、広く一般寺院、門徒宅にも親鸞聖人への謝徳の思いが伝わり、今のような盛大な報恩講が営まれるようになったと言えます。
正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

| | | |
|------------|------------|------------|
| 日高町 湯川千代子様 | 御坊市 塩田 廣一様 | 由良町 浜崎 礼子様 |
| 由良町 畑中 靖子様 | 由良町 井口きよみ様 | 由良町 直川せつ子様 |
| 由良町 小林 民子様 | 由良町 磯田 公子様 | |
| 由良町 中川 恵美様 | 由良町 小谷かおり様 | |

ホームページ、またはハガキに住居、氏名、年齢、電話番号、所属寺、紙面についてのご感想、ご意見等を明記の上、下記までお送り下さい。

〒649-1221
和歌山県日高郡日高町志賀2988
妙願寺内 日高組事務所 宛

☆抽選で10名の方に『粗品』を進呈します。

締切 2019年5月20日(必着)
発表は次号です

「私たちのちかい」についてのご親教

秋の法要で門主さま「ご親教」

専如門主は11月23日の本願寺での秋の法要(全国門徒総追悼法要)で若者をはじめとする方々を対象に「念仏者の生き方」のお心を体し肝要として四カ条にまとめられたご親教「私たちのちかい」をお心を体し肝要として、紙面でご紹介させていただきます。

この四カ条のちかいを、朝夕や機会あるたびに唱和させていただきます。

私は伝灯奉告法要の初日に「念仏者の生き方」と題して、大智大悲からなる阿弥陀如来のお心をいただいた私たちが、この現実社会でどのように生きていくのかということについて、詳しく述べさせていただきました。このたび「念仏者の生き方」を皆様により親しみ、理解していただきたいという思いから、その肝要を「私たちのちかい」として次の四カ条にまとめました。

私たちのちかい

- 一、自分の殻(から)に閉じこもることなく
穏(おだ)やかな顔と優しい言葉を大切にします
微笑(ほほえ)み語りかける仏さまのように
- 一、むさぼり、いかり、おろかさに流されず
しなやかな心と振る舞いを心がけます
心安らかな仏さまのように
- 一、自分だけを大事にすることなく
人と喜びや悲しみを分かち合います
慈悲(じひ)に満ちみちた仏さまのように
- 一、生かされていることに気づき
日々に精一杯(せいいっぱい)つとめます
人びとの救いに尽くす仏さまのように



この「私たちのちかい」は、特に若い人の宗教離れが盛んに言われております今日、中学生や高校生、大学生をはじめとしまして、これまで仏教や浄土真宗のみ教えにあまり親しみのなかった方々にも、さまざまな機会でご唱和していただきたいと思っております。そして、先人の方々が大切に受け継いでこられた浄土真宗のみ教えを、これからも広く伝えていくことが後に続く私たちの使命であることを心に刻み、お念仏申す道を歩んでまいりましょう。

2018(平成30)年11月23日

浄土真宗本願寺派門主 大谷光淳

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) スローガン

結ぶ絆から、広がるご縁へ

— From tying bonds to great encounters —



キッズサンガ 教専寺 由良町阿戸

12月30日、「お寺においday」と、地元、帰省の子ども達を対象に教専寺のキッズサンガをしました。合掌礼拝、お焼香の作法からお勤め、阿弥陀さまのお話しをして、ティタイムの後、除夜の鐘つきの練習をしました。昔、小学生で来た子ども達の子供もが参加してくれたのは感慨無量ですね。

組内寺院の活動(実践運動)



修正会(元旦会)で新年会

元日の朝10時からのお勤めの後、鍋を囲んで新年会を行っています。元総代さんや若手らが交わり、楽しいひとときを過ごしました。(妙願寺)



除夜の鐘撞き

(円行寺・小浦、妙願寺・上志賀)
日高町の2ヶ寺は、夕方4時から主に幼児や帰省された外孫らを対象に、数年前から「鐘撞き大会」を行っています。

第10期れんけん(門徒推進員養成連続研修会)



組門徒推進員養成連続研修会(れんけん)が2月2日(土)からスタートしました。れんけんは門徒推進員(「あらゆる人々に阿彌陀如来の智慧と慈悲を伝え、もって自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する」ことを目的とし、ご親教「念仏者の生き方」をもととして門徒・僧侶ともに宗門の「御同胞の社会をめざす運動」(実践運動)にとりくむ強力な推進者)を養成する連続研修会です。

れんけんが始まる！ 26名の受講生でスタート

れんけんは一般的な研修など自己研鑽の場ではなく、話し合い法座を通じて自己を見つめ、多様な生き方をする方々の思いに共感してゆく研修とも言えるでしょう。

第1回のれんけんはオリエンテーションから始まりました。

れんけん運営委員の楠原副組長から「ようこそれんけんへ」の説明が行われ、門徒推進員は組内で現在1名が活動中であり、更なる人材育成が必要である旨が報告されました。

続いて教学・伝道部門担当の永原副組長から「真宗入門」として浄土真宗の教章の解説がなされ、仏教讃歌(真宗宗歌・恩徳讃)の歌唱指導と続きました。

話し合い法座では担当の楠原委員よりまず法座の心得や進行の手順、注意事項などが説明されたあと、4グループ6〜7名にわかれて「私と宗教」というテーマで話し合いが始まりました。

グループ討議では、「なるほど!」「すごいなあ」など自分との価値観の違いなどに聞き入っている方も...



最後のまとめで、「お焼香の回数や作法が分からないのです」という質問が出ましたが、参加者の皆さんに「どうするのが正しいと思いますか?」と逆に質問すると、1人の女性が「おし頂かずに1回だけ焼香するのが正しいと聞いています」と正式な返答をされました。

受け身ではなく主体的に研修に参加される姿勢が見られたのは、何よりうれしいことでした。

今後の話し合い法座が楽しみです。受講者みんなで大いらいと研鑽できた第1回れんけんでした。

なお、第2回は4月13日(土)、由良町阿戸の教専寺で開催予定です。

日高組真宗法座でお聴聞! 京都教区 山本泉茂師が登壇



「聖人のつねのおおせ」をお取り次ぎ、新規寺院設立の苦労話を交えながらの法話

第24回真宗法座が12月9日に開催。今回は第10期門徒推進員養成連続研修(れんけん)の開講式が併修。講師は本願寺派布教使、京都教区から山本泉茂師が来られ、「聖人のつねのおおせ」の講題でご法話いただきました。在家から浄土真宗の僧侶となった生い立ち、八幡市で寺院を新規設立し、多額の借金を返済しながらご門徒を教化され、徐々に篤い信頼の中で戸数が増加していった苦労話から法話は始まり、「聖人のつねのおおせ」には、「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり。されば、そくばくの業をもちける身にてありけるを、たすけんとおぼしめしたちける本願のかたじけなさよ」と御述懐そうらいしことを、いままた案ずるに、善導の、「自身はこれ現に罪悪生死の凡夫、曠劫よりこのかた、つねにしずみ、つねに流転して、出離の縁あることなき身としれ」という金言に、すこしもたがわせおわします(『歎異抄』末文)

のお心を、母親の生き様や自身の人生を照らし合わせ味わわれた。ご法話でした。



日高組通信

☆行事報告

◎第24回日高組真宗法座

(第10期れんげん開講式)

日高組主催の第24回真宗法座が12月9日、日高町小浦の円行寺で開催され、門徒、寺院関係者ら約70名が集まり、熱心に聴聞しました。この法座は日高組の御同朋の社会をめざす運動(実践運動)の重点項目でもあり、毎年この時期に開催されています。

法座に先立ち、第10期連続研修会開講式が行われ、受講者26名が今後2ヶ月ごとの研修を受講し、2年後の真宗法座で修了する予定です。

真宗法座には、京都教区から本願寺派布教使の山本泉茂師が登壇され、「聖人のつねのおおせ」の講題で阿弥陀さまのご本願のいわれを説かれ、在家から僧侶として研鑽され、新たに寺院を設立された苦勞話などを交えてお取り次ぎをいただきました。(詳細記事6ページ)

◎門徒総代会

30年度門徒総代会後期研修会が2月2日、小浦円行寺にて開催されました。今回は「布教大会」でした。

今回の研修は、三人のご講師を招き、お一人20〜30分の持ち時間で法話をお聴聞させていただきました。

布教使は大阪教区・東住吉組・宇野一教(かずのり)師(常德寺)、奈良教区・三山(さんざん)組・多田大順(だいじゅん)師(順明寺)、大阪教区・西淀川組・園淵和貴師(西法寺)でした。

三師共に「阿弥陀さまは、なんまんだぶつと言葉、声の仏様。私の身に至り届いて下さり口に現れ出て下さいます」とのおとりのつき(おんぎょく)。(笑)あり涙あり...阿弥陀さまのお慈悲の時間を共にさせていただきます。

◎門徒推進員養成連続研修会

第1回れんげん(連続研修会)が2月2日、日高町志賀の妙願寺で開催され、25名の受講者が出席して研修を受けました。

(詳細記事7ページ)

◎組内会・実践運動組僧侶研修会

第3回組内会並びに日高組実践運動僧侶研修会が2月16日、志賀即生寺で開催されました。

僧侶研修では「外国人と人権」の違いを認め、共に生きるくの人権啓発教材を鑑賞後、話し合いを通して、偏見や差別を乗り越え多文化共生社会を築くため、私たちに何ができるのかを学びました。

☆行事予定

◎30度日高組実践運動推進委員会

3月2日(土)午後2時から志賀即生寺で開催予定。第3期実践運動重点プロジェクト1年間の評価、各部会の事業経過報告、決算報告並びに事業予定、予算案等について協議します。

◎寺族婦人会報恩講・研修会

3月5日、志賀妙願寺にて開催予定。講師は妙願寺楠原住職、「日常の寺院活動」地域とお寺のつながりを大切に〜について研修します。

◎30年度日高組定期組会

(組役員物故者追悼法要)

3月30日(土)午後2時から由良町網代の念興寺にて開催します。組会に先立ち、30年度に逝去された住職・僧侶・寺族・責任役員・門徒総代の物故者追悼法要をお勤めします。

組会では、組会議員により今年度事業報告、決算報告、次年度事業計画、予算案等の審議が行われます。

読者の声

※報恩講の事がわかり勉強になりました。すぐ忘れてしまうと思いますが、読みやすい紙面です。※今回は覚性寺さんの結婚式の様子の写真を見てほのぼのとしています。いいですね。ひかりを読んでいると事件、事故など一行も書いていないので、すみからすみまで拝読しています。別世界です。落ち着きます。

※感謝、いつもお世話になりまことに有難うございます。

※いつもひかりを楽しみに見えています。又、このたび覚性寺の仏前結婚式おめでとうございます。お父様もおられたら喜んでる事でしょうね。過去に職場が一緒でお世話になりました。

※前号のひかりにれんげんの案内がありました。私はいれんげんを受講させていただきました。ありがとうございました。浄土真宗のお荘厳や香、華、灯の三具足について詳しく教えていただき大変勉強になりました。一人でも多くの方が受講される事を願っています。

※毎号、楽しみに拝読しております。なかでも「法話」はわかりやすく書かれていますので、佛教への親しみがわいてきます。

※「ひかり」をいつもたのしみにしています。まだまだわからないことだらけですが、今日の報恩講さんで教えて頂いたことを少しでも心にとめて精進したいと思えます。

※昨日、今日と教専寺様の報恩講にお参りさせて頂き、わかりやすく面白く話して下さい有り義な2日間となりました。

※秋短く早くも冬の到来です。無事に新しい年を迎えられますように。

※十一月は報恩講ですね。ふりがなを打ってくださったのに、それ以上に読めなかったり、まだまだ勉強不足です。

ひかり編集委員会(広報部)では読者の皆さんからの投稿を募集しています。「法悦クイズ」には是非チャレンジしましょう。同時にご意見ご感想を添えていただければ幸いです。

今 いのちに咲かす 同朋の華